

# 労働災害の現況

令和5年の概況

## 目次

1 労働災害の推移	……P1
2 月別の発生状況	……P2
3 業種別発生状況の推移	……P2
4 事故の型別発生状況の推移	……P3
5 起因物別発生状況の推移	……P3
6 事故の型・起因物別発生状況	……P4
7 年齢別発生状況	……P4
8 主要業種別経験年数別発生状況	……P5
9 主要業種別事故の型別発生状況	……P6
10 新型コロナウイルス感染症による発生状況	……P7



金沢労働基準監督署 安全衛生課

# 1 労働災害の推移

死傷者数は前年に比べ大幅に減少

## (1) 死傷者数

令和5年に発生した労働災害による休業4日以上死傷者数は、916人となり、令和4年よりも514人(35.9%)の減少となった。(労働者死傷病報告の集計による人数。以下同じ。)

なお、916人中新型コロナウイルス感染によるものは233人(25.4%)となり、前年の700人から大幅に減少した。しかしながら、新型コロナウイルス関連を除いても683人であり、平成27年の560人から増加に転じた後、700人前後の状態が続いている。

表1 前年との対比

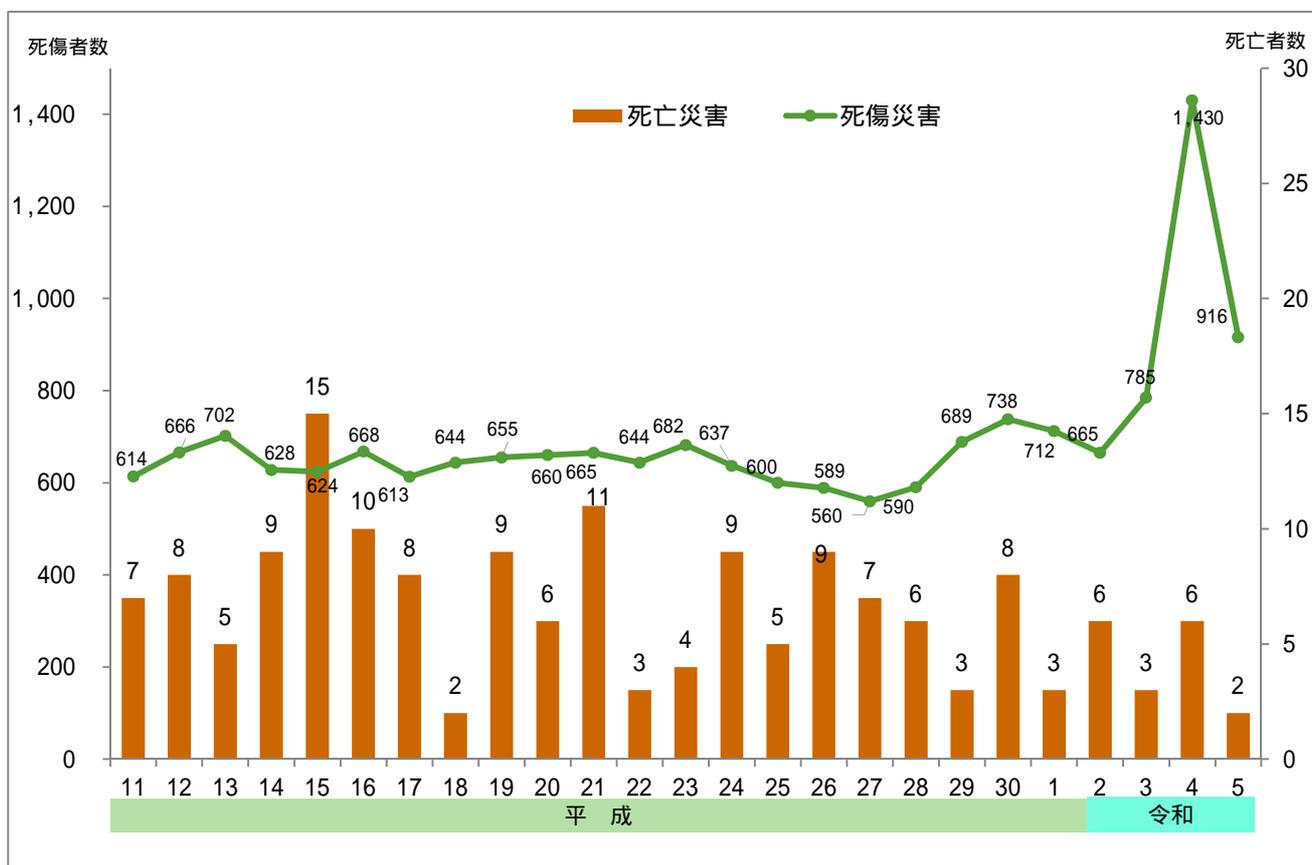
対象年	死傷者数 (休業4日以上)	前年との対比		* 死傷者数 (休業4日以上) 新型コロナ関連除く
		増減	増減率(%)	
平成30年	738	49	7.1	738
令和元年	712	26	3.5	712
令和2年	665	47	6.6	637
令和3年	785	120	18.0	721
令和4年	1,430	645	82.2	730
令和5年	916	514	35.9	683

## (2) 死亡者数

令和5年の労働災害による死亡者数は、前年の6人から4人減少して、2人となった。

業種別では、新聞配達業及びその他の卸売業であり、災害の概要としては、新聞配達中の交通事故及び、建設現場に向かって工事用管理道路をラフタークレーンで登坂中、路肩から当該クレーンごと転落したものの。

図1 年別労働災害発生状況の推移

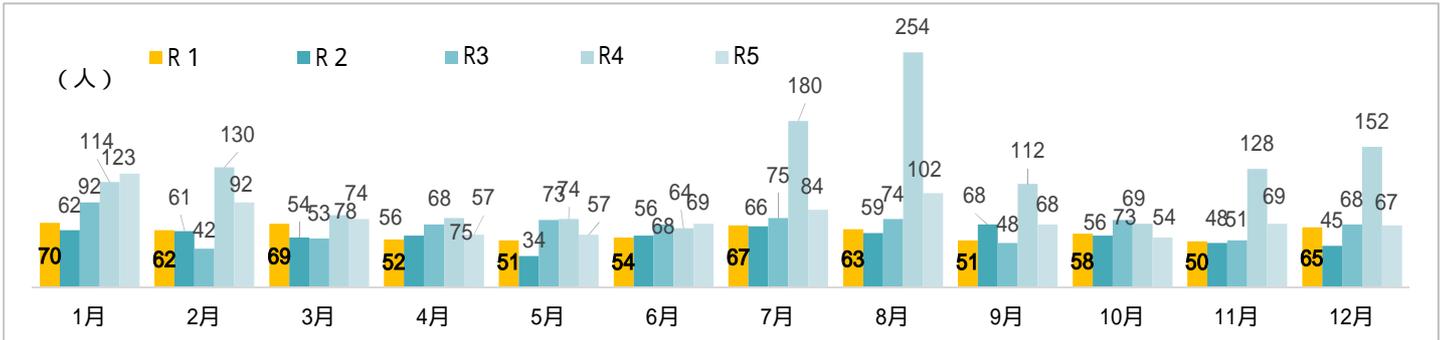


## 2 月別の発生状況

### 新型コロナウイルス感染拡大の影響が顕著

月別の発生状況では、冬季の凍結等の影響による転倒災害が多く発生しているものの依然として、新型コロナウイルス感染状況に影響されており、感染者は1、2月及び7、8月で合計167人となった。

図2 月別労働災害発生状況の推移（年対比）



## 3 業種別発生状況の推移

### 製造業、運輸交通業、第三次産業において大きく減少（以下コロナ関連を除く）

#### (1) 製造業

死傷者数は131人(全産業に占める比率は19.2%)となり、前年と比べて20人、13.2%減少した。業種中分類で細分化すると食料品製造では29人（前年と比べて10人、25.6%減少）、一般機械器具製造では26人（前年に比べて5人、23.8%増加）、金属製品製造業では18人（前年と同数）、輸送用機械では8人（前年と比べて1人、14.3%増加）となった。

#### (2) 建設業

死傷者数は58人(全産業に占める比率は8.5%)となり、前年と比べて1人、1.8%増加した。業種中分類で細分化すると、建築工事で30人（前年と比べて12人、28.6%減少）、内木造家屋建築業は7人、土木工事で15人（前年と比べて2人、15.4%増加）となった。

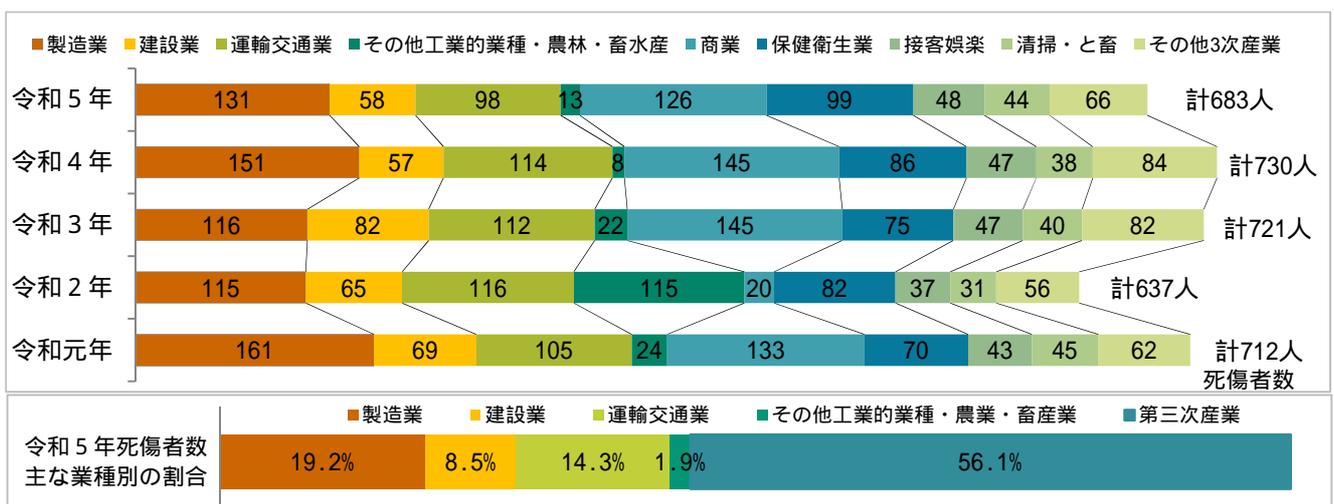
#### (3) 運輸交通業

死傷者数は98人(全産業に占める比率は14.3%)となり、前年と比べて16人、14.0%減少した。

#### (4) 第三次産業

死傷者数は383人となり、前年と比べて17人、4.3%減少した。一方で全産業に占める第三次産業の死傷者数の割合は56.1%と過去5年間で最も高くなった。業種中分類で細分化すると商業で126人（前年と比べて19人、13.1%減少）、新型コロナウイルスの感染拡大により大きく増加した保健衛生業ではコロナ関連を除いても99人（前年と比べて13人、15.1%増加）となり、過去5年間で最も多くなった。

図3 業種別の発生状況の推移



## 4 事故の型別発生状況の推移

「転倒」「墜落・転落」災害が減少するも「動作の反動・無理な動作」が多発

事故の型別では、通路、作業床等における「転倒」災害の死傷者数が194人(全体に占める比率28.4%)と比率は減少しているものの、新型コロナウイルス感染症によるものを除くと最も多い。次いで高所や階段等からの「墜落・転落」災害が145人(同21.2%)、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」が90人(同13.2%)、「はさまれ・巻き込まれ」が61人(8.9%)となった。

また、転倒災害のうち通路に起因するものは84人で前年と比べ77人減少したものの、転倒災害の43.3%を占めている、なお、環境(雪、凍結等)を起因とするものは、16人で前年と比べて13人減少した。

図4 事故の型別災害発生状況の推移

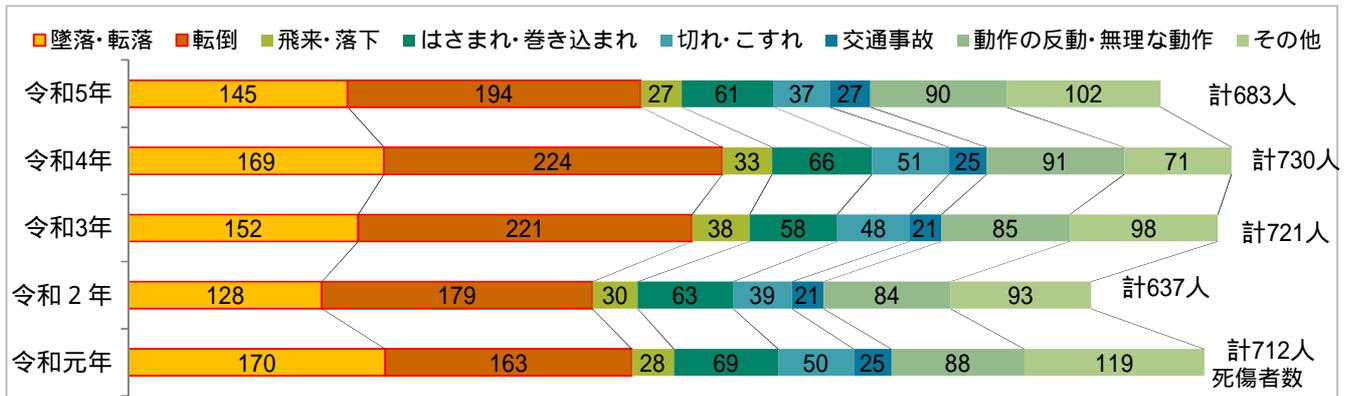
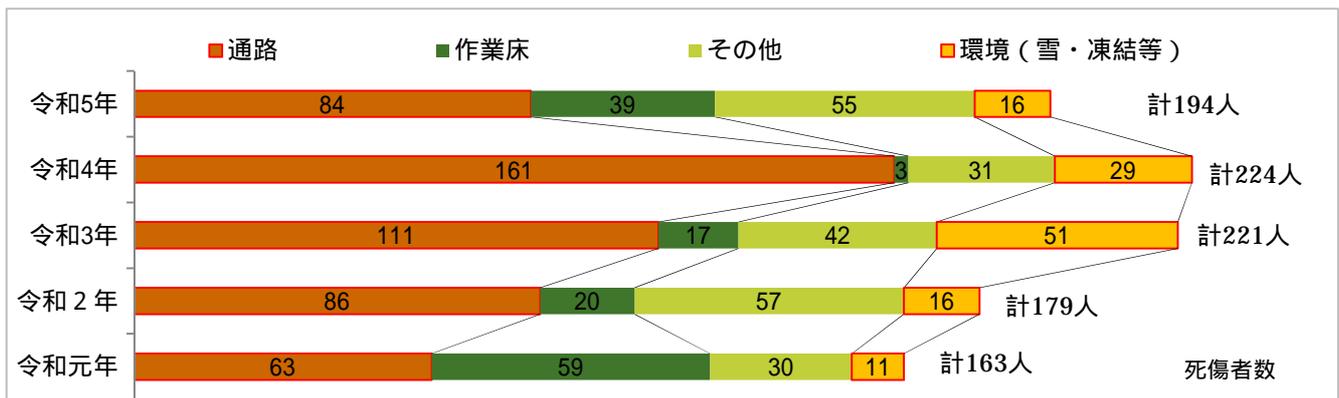


図5 転倒災害の起因物別の発生状況の推移

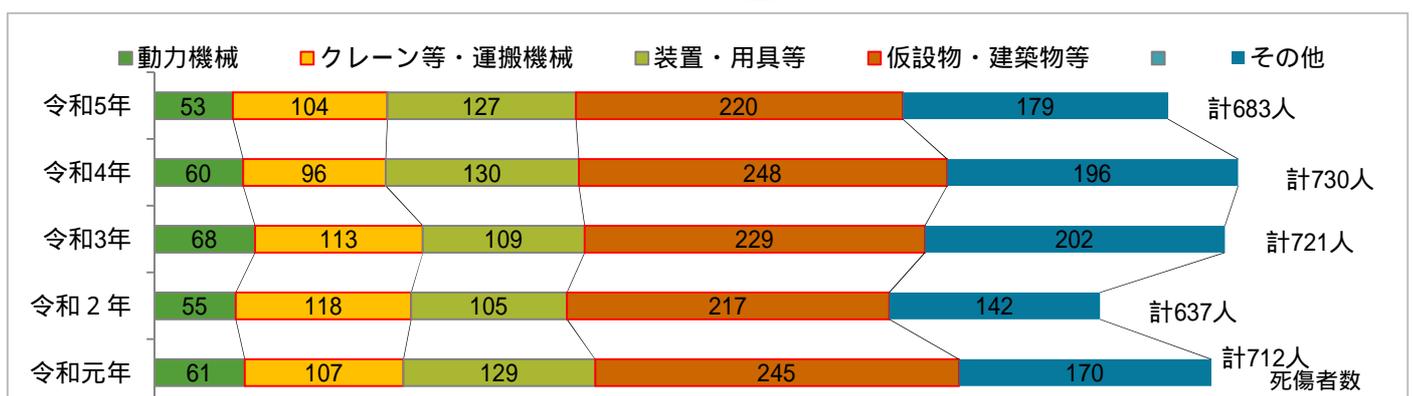


## 5 起因物別発生状況の推移

クレーン等の運搬機械を起因とする災害が増加

起因物別では、新型コロナウイルス感染症が233人(前年と比べて467人)と大きく減少した(下記統計には含まず)。階段、通路、作業床等の「仮設物・建築物等」が220人(前年と比べて28人、11.3%減少)と最も多く、はしご、人力運搬機、手工具を含む「装置・用具等」が127人(前年と比べて3人、2.3%減少)、クレーン、トラック、乗用車などを含む「クレーン等、運搬機械」が104人(前年と比べて8人、8.3%増加)となった。

図6 起因物別の発生状況の推移

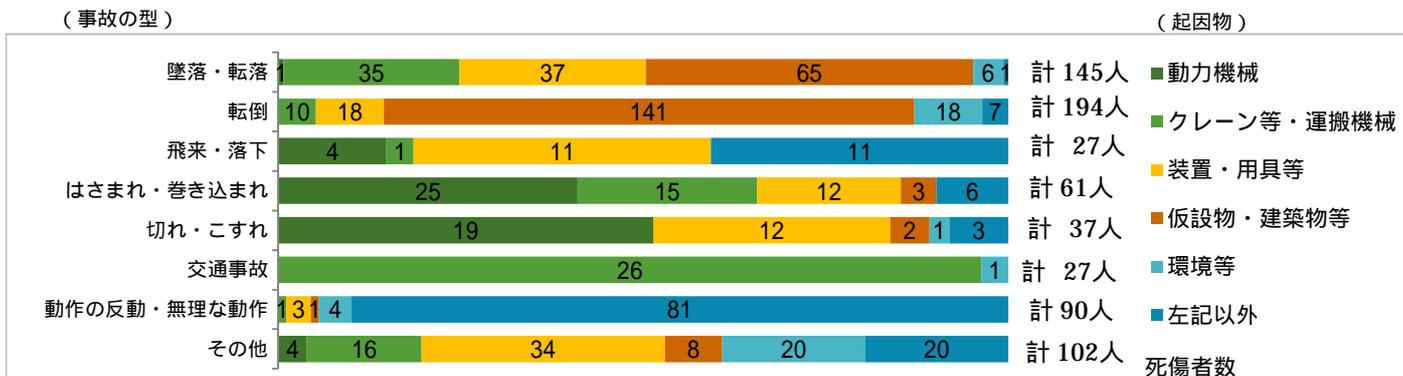


## 6 事故の型・起因物別発生状況

事故の型別・起因物別では、最も死傷者数が多い「転倒」災害では、作業床、通路などを含む「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが141人となり、「墜落・転落」災害でも「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが65人となっている。この2つの事故の型の「仮設物、建築物、構築物」の合計は206人となり、コロナ関連を除く全体の比率は、30.2%を占める。

この他、「動作の反動・無理な動作」災害の「起因物なし」等が81人、「墜落・転落」災害のはしご等の「装置・用具」が37人、トラックを含む「動力運搬機」に起因するものが35人、「はさまれ・巻き込まれ」災害の各種機械を含む「動力機械」が25人、「切れ・こすれ」災害の各種機械を含む「動力機械」が19人となった。

図7 事故の型・起因物別発生状況、発生割合（100%積み上げグラフ）



## 7 年齢別発生状況

「50歳代」、「60歳以上」の死傷者数は、合計399人となり、前年と比べて26人、6.5%減少したものの、全体の割合は58.4%となった。業種別では、運輸交通業、商業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業において、50歳以上の死傷者数の占める割合が50%を超えており、特に清掃・と畜業においては50歳以上の割合が75.0%、60歳以上としても54.5%となった。

図8 年齢別発生状況

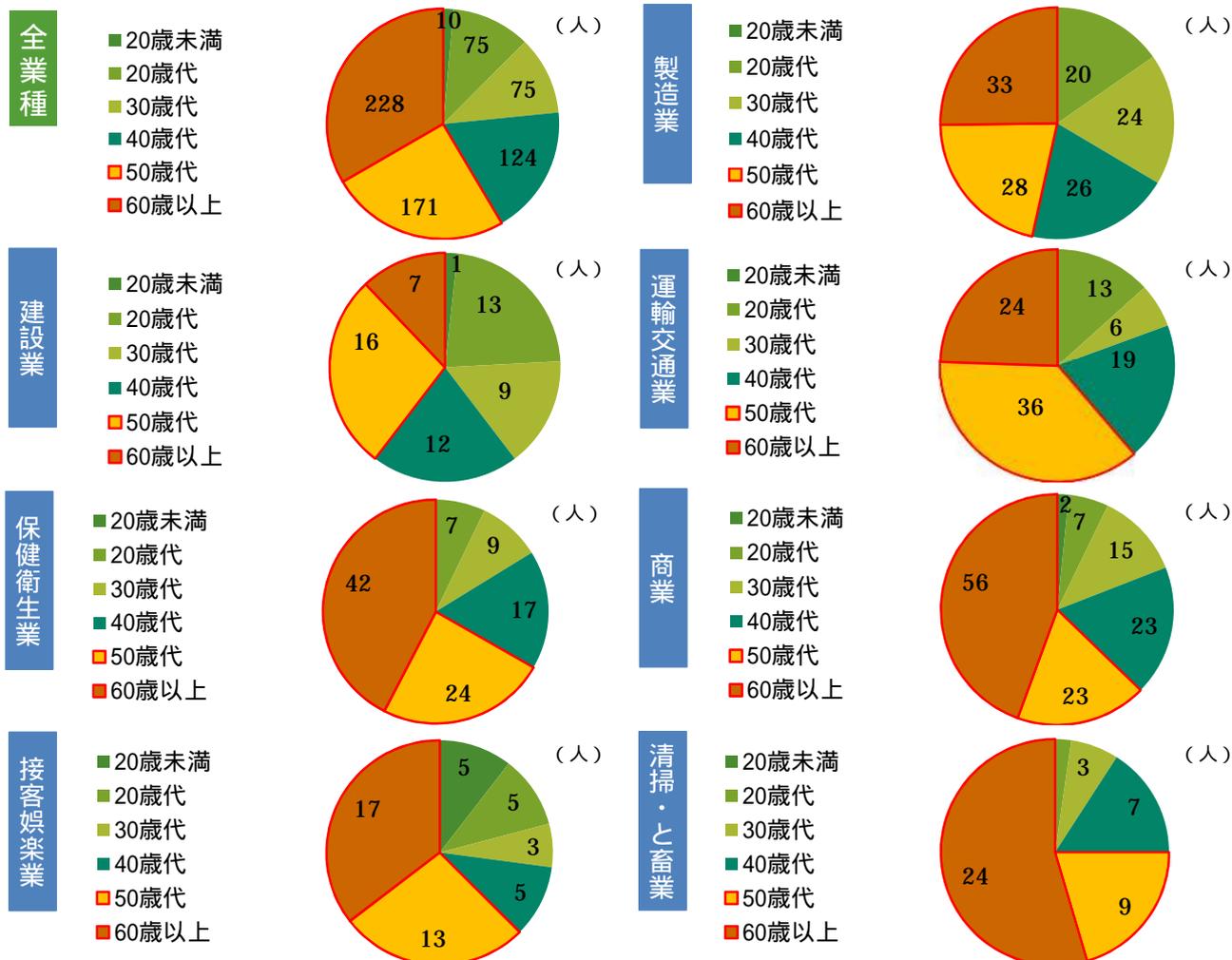
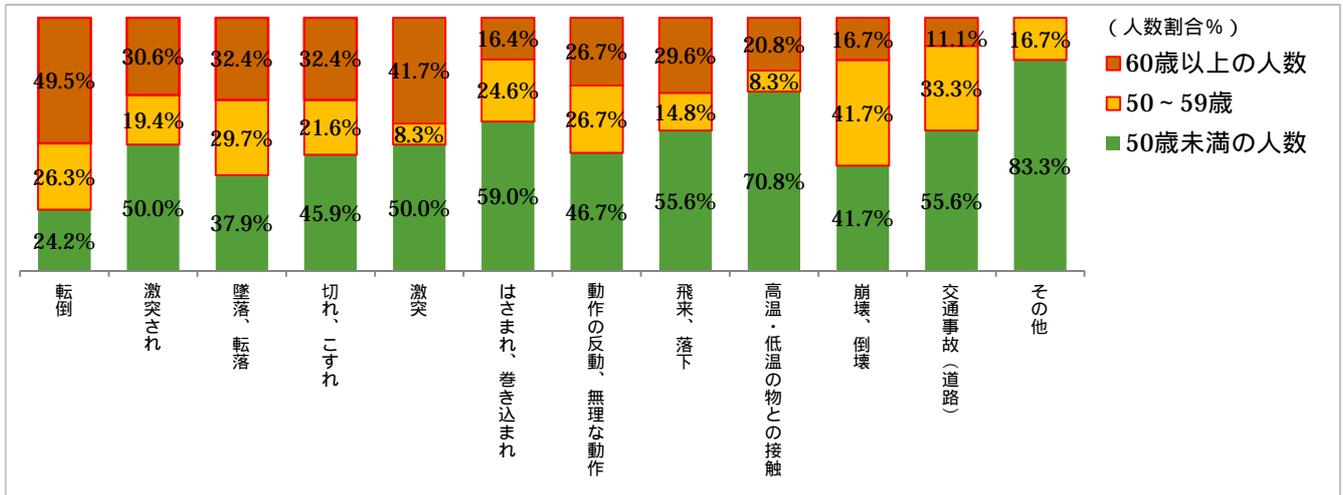


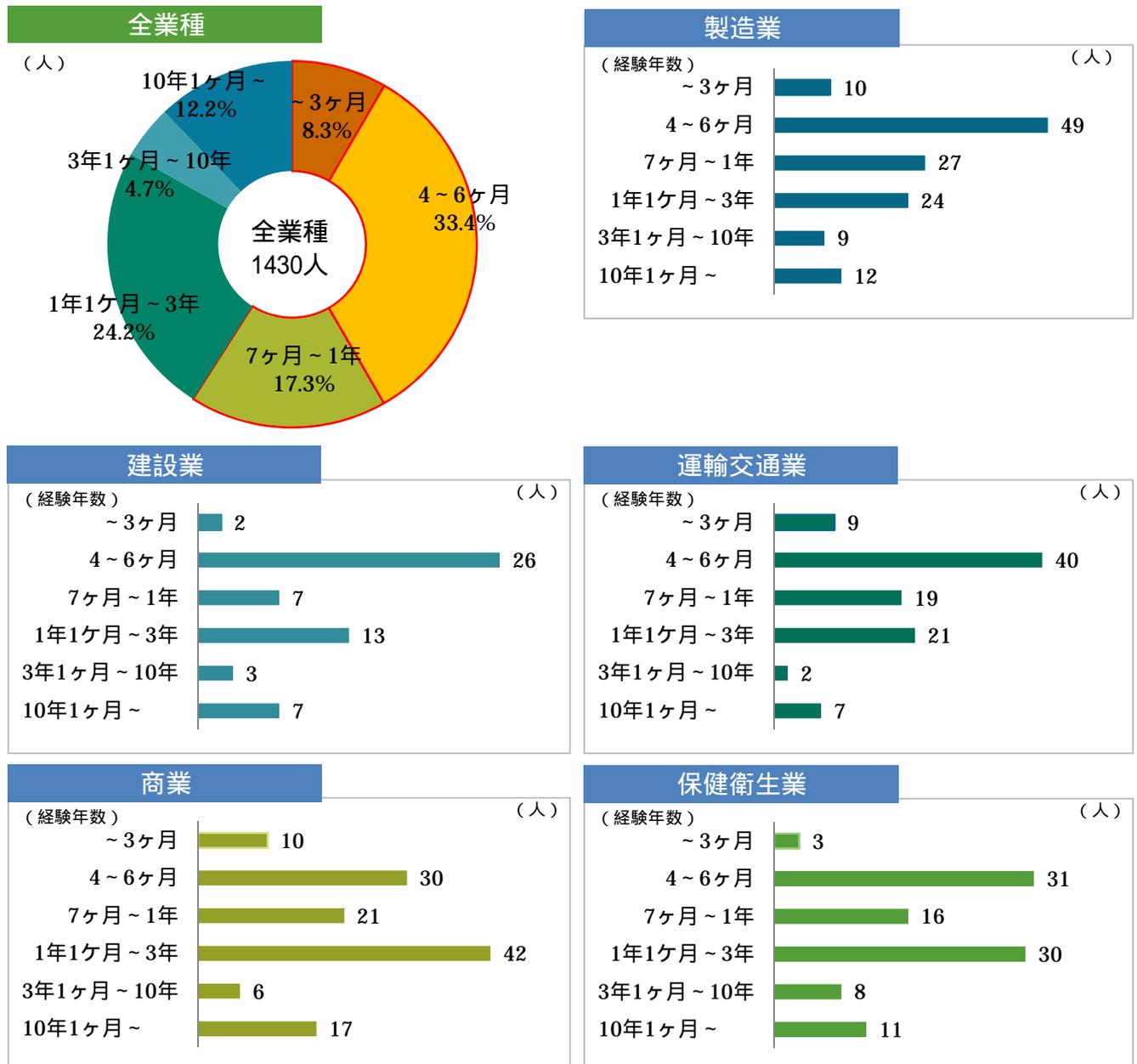
図9 事故の型別 全体に占める50歳以上の被災労働者数の割合



## 8 主要業種別経験年数別発生状況

経験年数別に見ると経験が1年以下の被災者数は、全体の59.0%を占めている。（昨年と比較して8ポイント増加）また、業種を問わず「4ヶ月以上6ヶ月以下」と「1年1ヶ月以上3年以下」の発生状況がほかの区分と比べて多くっており、3年以下の被災者数は、全体の83.2%を占めている。

図10 業種別 経験年数別の労働災害発生状況



## 9 主要業種別事故の型別発生状況

### 製造業

製造業の小分類別では、食料品製造が前年よりも10人減少し、29人(製造業に占める比率22.1%)と最も多かった。次いで、一般機械器具製造業が26人(同19.8%)、金属製品が18人(同13.7%)となっている。なお、死亡災害は発生していない。

事故の型別では、機械やコンベア及びフォークリフトによる「はさまれ・巻き込まれ」災害が29人(製造業に占める比率22.1%)と最も多く、次いで作業床、通路等での「転倒」災害が25人(同19.1%)で階段やはしご等からの「墜落・転落」災害が17人(同13.0%)となっている。

図11 製造業における労働災害発生状況

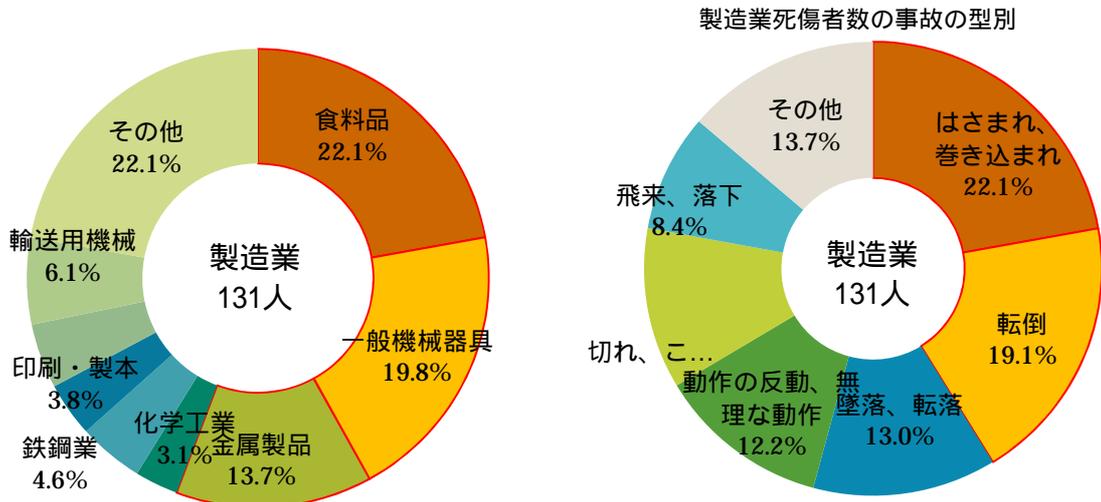
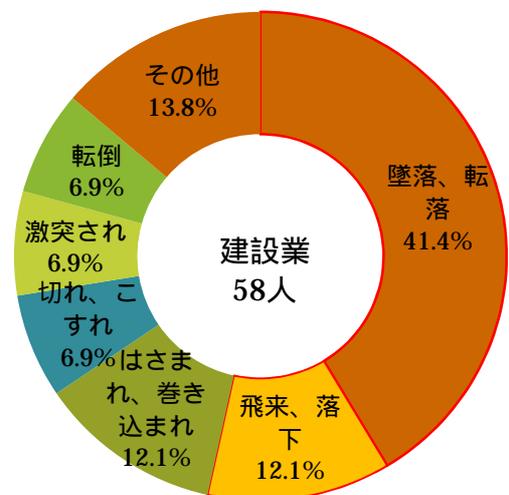


図12 建設業死傷者数「事故の型」別発生状況

### 建設業

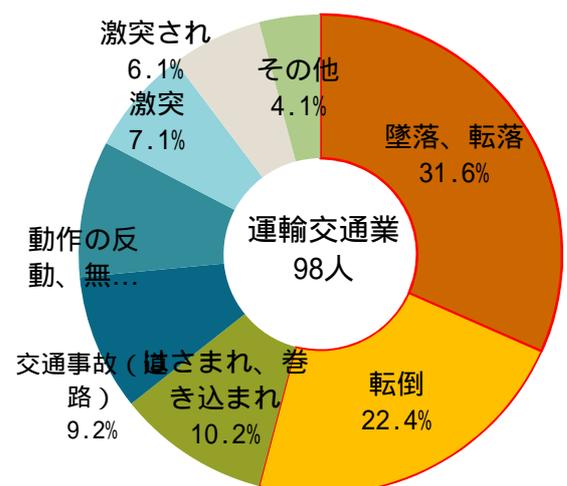
事故の型別では、高所等からの「墜落・転落」災害が24人(建設業に占める比率41.4%)と最も多く、次いで「飛来、落下」災害及び「はさまれ・巻き込まれ」災害が7人(同12.1%)、「転倒」、「切れ、こすれ」災害及び「激突され」災害が4人(同6.9%)となっている。なお、死亡災害は発生していない。



### 運輸交通業

事故の型別では、トラック荷台等からの「墜落・転落」災害が31人(運輸交通業に占める比率31.6%)と最も多く、次いで、通路、作業床に起因する、「転倒」災害が22人(同22.4%)、「はさまれ・巻き込まれ」災害が10人(同10.2%)「動作の反動・無理な動作」災害及び「交通事故」災害が9人(9.2%)、「激突」災害が7人(7.1%)となっている。なお、死亡災害は発生していない。

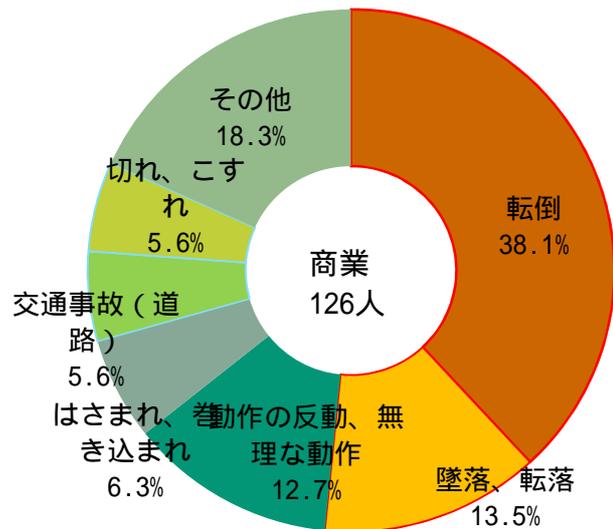
図13 運輸交通業死傷者数「事故の型」別発生状況



## 商業

事故の型別では、作業床、通路等に起因する「転倒」災害が48人(商業に占める比率38.1%)と最も多く、次いで、階段、脚立、トラック等からの「墜落・転落」災害が17人(同13.5%)、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」災害が16人(同12.7%)、「はさまれ、巻き込まれ」災害が8人(同6.3%)「交通事故」と「切れ・こすれ」災害が同数で7人(同5.6%)となっている。また、新聞販売業における交通死亡災害及び、移動式クレーンを工事現場に運搬中、路肩から転落した死亡

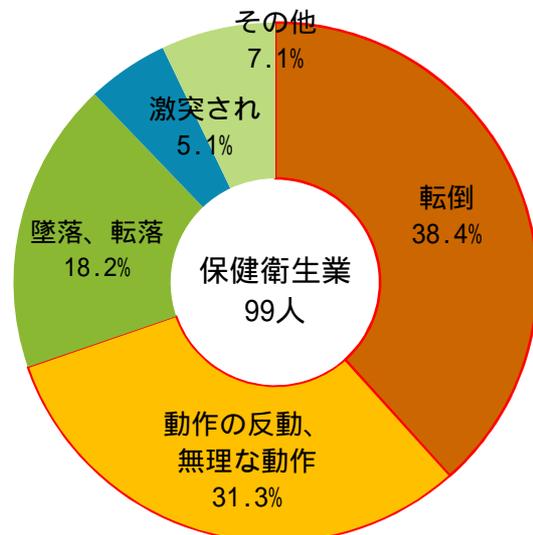
図14 商業死傷者数「事故の型」別発生状況



## 保健衛生業

事故の型別では、「転倒」災害が38人(38.4%)と最も多く、次いで、介護作業、荷姿の物などを起因とする腰痛等の「動作の反動・無理な動作」災害が31人(31.3%)、脚立等からの「墜落・転落」災害が18人(18.2%)となっている。なお、死亡災害は発生していない。

図15 社会福祉施設・病院等死傷者数「事故の型」別発生状況



## 10 新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害発生状況

新型コロナウイルス感染症は、昨年と比較して467人減少した。業種別では、社会福祉施設や病院の「保健衛生業」が230人(98.7%)となっており、小売業を含む「商業」で1人(0.4%)「清掃・と畜業」で1人(0.4%)となっている。

